

1. 日米株式と円/ドルの推移



(注)チャートは過去1年

	単位	2019/12/31	2020/2/28	2020/3/13	過去3年高値		過去3年安値	
		(前年末)	(前月末)	(前週末)	水準	日付	水準	日付
日経平均	円	23,656.62	21,142.96	17,431.05	24,448.07	2018/10/2	16,690.60	2020/3/13
NYダウ	ドル	28,538.44	25,409.36	23,185.62	29,568.57	2020/2/12	20,379.55	2017/4/19
円/ドル	円	108.61	107.89	107.62	115.20	2017/3/14	101.19	2020/3/9

過去3年高値・安値はザラ場ベース / 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

2. 日本株市場 先週の振り返り

～新型コロナウイルスの世界的な感染拡大による景気減速懸念が高まり、下落～

先週の日本株市場は、週間ベースで日経平均が▲3,318.70円(▲15.99%)、TOPIXが▲209.76ポイント(▲14.26%)となり、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大による景気減速懸念が高まり、下落しました。業種別(東証33業種)でみると、鉱業、海運業、不動産業、空運業などの全業種が下落しました。

週初は、①米ニューヨーク州の非常事態宣言やイタリア北部地域の隔離決定などを受け新型コロナウイルスの感染拡大による景気減速懸念が高まったこと、②OPEC(石油輸出国機構)とロシアなど非加盟国の減産協議が決裂し原油価格が急落したこと、③為替市場において一時1ドル101円台まで円高ドル安が進んだことなどから大幅下落して始まりました。その後は米財政政策への期待から小幅上昇する局面もありましたが、12日には④WHO(世界保健機関)がパンデミック(世界的大流行)を表明したこと、⑤トランプ米大統領が英国を除く欧州から米国への渡航を30日間停止すると発表したことから、大きく下落しました。週末13日は、⑥ECB(欧州中央銀行)が利下げを見送り失望感が広がったことなどから米国株市場が大幅に下落したことを受け、一時3年8ヶ月ぶりに日経平均が17,000円を割り込むなど大幅続落して引けました。

3. 今週の主な予定

日程	曜日	国・地域	項目	前日	前回	
3月16日	Mon	日本	機械受注(船舶・電力を除く民需)(前月比)	1月	▲12.5%	
			日本銀行、政策委員会・金融政策決定会合			
		中国	鉱工業生産(年初来/前年比)	1-2月	+5.7%	
			英国	イングランド銀行総裁にアンドルー・ベイリー氏が就任		
			欧州	ユーロ圏財務相会合		
米国	ニューヨーク連銀製造業景況指数	3月	12.9			
	ドイツ	ZEW期待指数	3月	8.7		
3月17日	Tue	米国	大統領選、予備選挙・党員集会集中日(アイダホ州、ミシガン州、ミシシッピ州等)	2月	▲0.3%	
			鉱工業生産(前月比)	2月	+0.3%	
3月18日	Wed	日本	小売売上高(除自動車)(前月比)	2月	+0.8%	
3月19日	Thu	日本	貿易収支	2月	▲1兆3,132億円	
		日本	CPI(全国消費者物価指数)(除生鮮/前年比)	2月	+0.8%	
3月20日	Fri	米国	フィラデルフィア連銀製造業景況指数	3月	36.7	
		米国	中古住宅販売件数	2月	546万件	

※ 当社が信頼できると判断した情報に基づき作成

4. 日本株市場 今週の見通し

～新型コロナウイルス感染者拡大の影響が懸念されるもの、主要各国の金融政策や財政政策が市場参加者の不安感を徐々に和らげる～

今週の日本株市場は、①新型コロナウイルスについて中国の感染者数が頭打ちとなる一方、欧米の感染者数が急増する中、WHOがパンデミックを表明したことやイタリア・スペイン・米国が非常事態宣言を出したことを受けて世界景気や企業業績に対する先行き不透明感が一段と高まっていること、②株価を含め各金融市場のボラティリティ(価格変動性)が急上昇していることなどから、投資家のリスク回避の動きが続くと予想します。但し、①日本・米国・欧州・英国・カナダ・スイスの各中央銀行が米ドルの流動性供給を拡充する方針を打ち出したこと、②本日朝方、FRB(米連邦準備理事会)は臨時のFOMC(米連邦公開市場委員会)を開催し、政策金利を1%引き下げ(1~1.25%→0~0.25%)、量的金融緩和の再開(債券保有を7,000億ドル増加)を決定したこと、③日銀も本日臨時の金融政策決定会合を開催し、追加金融緩和を打ち出したこと、④主要各国が減税等を含めた経済対策を打ち出す姿勢をみせていることなどから、徐々に市場も落ち着くとみており、下値余地は限定的とみています。その他の注目材料として、日本では16日の機械受注や18日の貿易収支、19日のCPI、米国では16日のニューヨーク連銀製造業景況指数、17日の鉱工業生産や小売売上高、19日のフィラデルフィア連銀製造業景況指数、ドイツでは17日のZEW期待指数などが挙げられます。



朝日ライフ アセットマネジメント株式会社
Asahi Life Asset Management Co., Ltd.
URL: <http://www.alamco.co.jp>

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第301号
加入協会: 一般社団法人投資信託協会/一般社団法人日本投資顧問業協会